

# ほっと石川

1997  
第5号

県民と県政のネットワーク誌



石川県

県森林公園（津幡町）三国山キャンプ場



# 特集

## 高速ネットワークが 石川を変える

高速ネットワークは、県土の均衡ある発展と世界に開かれた交流を促進するための交通網や情報網の整備を指します。個性あふれる風土と歴史、伝統と文化を持つ石川県を、国内外に発信するとともに、安心の暮らしを実現する災害にも強い基盤づくりに向けて、県が取り組む施策を紹介します。

### 新長期構想の基礎に

石川県が掲げる高速ネットワーク構想は、新しい全国総合開発計画を先取りする形で昨春秋、策定した石川県新長期構想（目標年次、平成二十二年）を具体化するための基礎となります。石川県は日本海国土軸の中央部に位置しており、新長期構想では環日本海交流の中核県としての役割を担いながら、人・もの・情報が行き交う活気と潤いにあふれた県づくりを目指しています。

### 交流人口の拡大を後押し

具体的な高速ネットワークの対象は、道路、鉄道、空港、港湾などの交通基盤と、マルチメディア時代に対応した情報通信基盤を想定しています。

二十一世紀の日本は、国際化とともに少子化と高齢化が進行し、経済規模の拡大や効率性より、心の豊かさが問われることになるでしょう。同時に、人口の伸びそのものよりも、その地域に外部からどれだけの人が訪れるかが、

# 交流

# 短縮

## 高速ネットワークが 石川を変える



# 安心

## 高速交通網と情報網が 世界に窓を広げ、 住みよいふるさとを築きます

地域に活力をもたらすカギになると考えられます。観光客やさまざまなイベント、コンベンションの参加者もそうでしょうし、海外からの留学生もその一つでしょう。この交流人口を増やすためには、その地域が国内外の人々にとって魅力的かどうかポイントとなります。

もちろん、その前提として、地域住民が快適に安心して暮らせる環境でなければならぬことは言うまでもありません。そして、県民の暮らしの豊かさを向上させるとともに、多様な交流を容易にする手段となるのが、高速ネットワークなのです。

### 移動時間の短縮で魅力アップ

石川県には変化に富んだ自然や厚い人情、伝統文化が息づくとともに、学問を大切にする藩政期以来の土壌が、全国的にも上位にランクされる高等教育機関の集積をもたらしています。このことは、交流人口を拡大するためのソフトが、石川県には他県よりも厚く蓄積されていることを意味します。

一方、南北に細長い地理的条件ゆえの移動時間などのハンディがまだ克服されていないのも事実です。見方を変えれば、移動時間を短縮し、利便性を増せば、石川県が潜在的に持っている魅力や住みよさがいま以上に花開き、より多くの人々を引きつけると言って

も過言ではありません。

高速ネットワークは、このハンディを解消するとても大きな武器なのです。高速交通網と情報通信基盤の充実、整備を着実に進めながら、世界に開かれた安心のふるさとを築いていきたいと思えます。



石川の学術・文化の高い集積を活かし、外国人留学生・研修生の受け入れ3倍増を目指します



コンベンションなど交流人口の拡大が地域に活力をもたらします

## Contents [目次] 1997 No.5

- 特集  
高速ネットワークが石川を変える ..... 2
- 県政ウオッチング  
石川県国際交流センター ..... 6
- エッセイ  
初代「いしかわの看板母娘」  
鈴木 美紀さん ..... 8
- 知事の窓 ..... 9
- ほほえみ  
加賀手話サークル「道」 ..... 9
- 視点  
「ボランティア」を考える ..... 10
- 施設ガイド  
石川県健康の森 ..... 12
- 市町村トピックス  
珠洲市  
奥能登珠洲ビーチホテル  
小松市  
国際色絵陶磁器フェア'97九谷 ..... 14
- 学びらんど  
石川県図書館  
情報ネットワーク ..... 15



# 特集

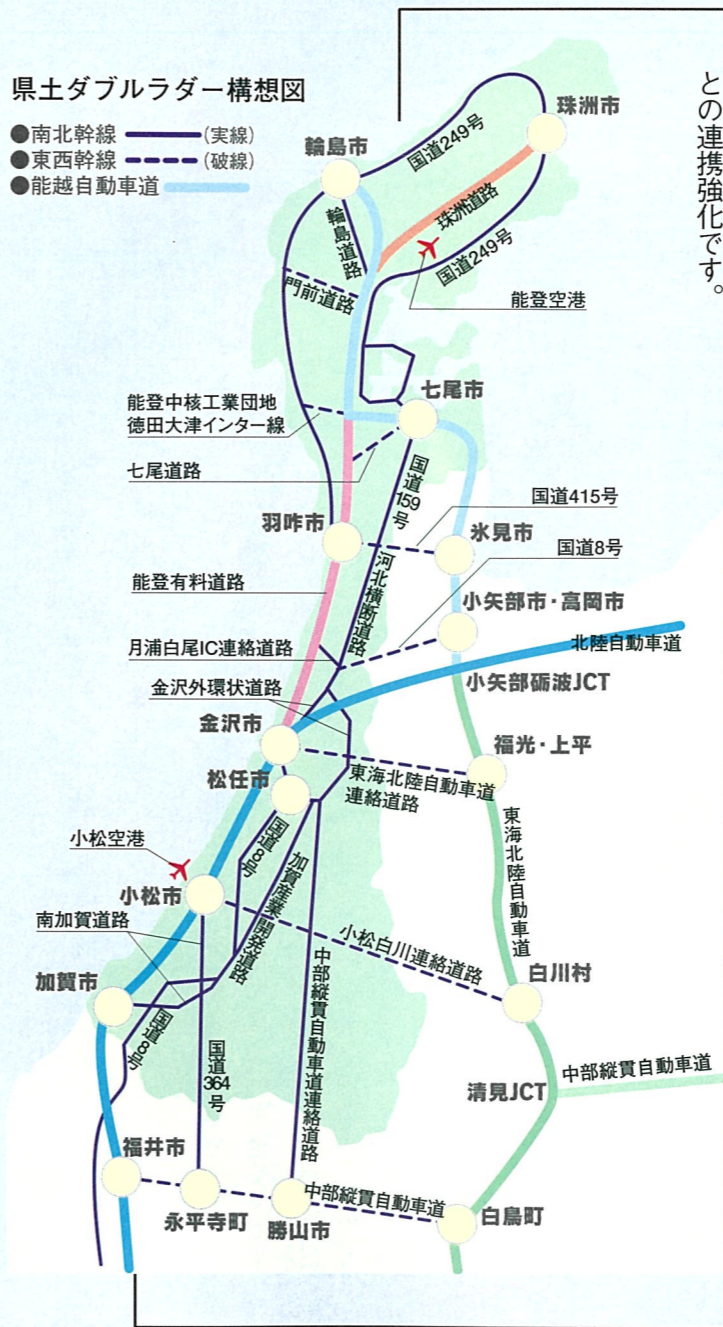
## 高速ネットワークが石川を変える

### 県土ダブルラダー構想（いしかわ広域交流幹線軸）

#### 利便性向上と災害に備え

ダブルラダーというのは、二重のはしごという意味です。県土ダブルラダー構想は、県内外を南北に走る幹線軸を三本確立し、これらの幹線軸をはしご状に東西の幹線で結ぶもので、二十一世紀初頭の完成を目指しています。

同構想の目的は三つあります。一つ目は、東京、大阪、名古屋の三大都市圏との時間短縮と能登く金沢く加賀のさらなる一体化、それに隣県との連携強化です。



二つ目は観光面における周遊性の向上、三つ目が災害発生時の代替機能の保持です。仮に災害で一本の幹線が寸断されても、残りの幹線を使えば地域住民の暮らしを確保することができます。

路線の選定に当たっては、北陸自動車道、能越自動車道をはじめ、国道や国道並みの規格で整備する県道など、地域の幹線軸となり一年を通して通行が可能な道路としました。県では、南北幹線軸、東西幹線とも、未整備の部分を順次、整備していきたいと考えています。

### 北陸新幹線

#### 金沢く石動間の整備進む

平成四年度から工事が始まった北陸新幹線金沢く石動間（約二十四キロ）は、平成九年三月末で、工事に着手したトンネルの約八四％が出来上がり、用地取得率は約三四％に達しています。昨年三月には、新幹線金沢駅の高架橋が完成しています。

昨年暮れの整備新幹線の取り扱いに関する政府与党合意で、長野く上越間が新たな建設検討区間に盛り込まれました。今秋、開業予定の高崎く長野間に接続して、日本海側に抜けるルートが明示されたことは、大きな前進と言えます。

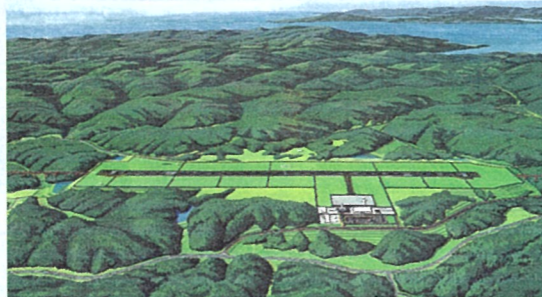


北陸新幹線（高崎～長野間）運行車両  
写真提供：北国新聞社

### 能登空港

#### 10年度、本格着工に向け始動

能登空港は、輪島市、穴水町、能都町にまたがる木原岳周辺を開発し、ジェット旅客機が発着できる長さ二千メートルの滑走路を整備するもので、平成十年年度の本格着工、十五年度の開港を目指しています。



能登空港イメージ図

路線予測	所要時間
東京便	1時間5分
大阪便	1時間5分
名古屋便	1時間

県は九年度、空港用地の先行取得に乗り出すとともに、本格着工に備えて各種の調査を実施しています。また、能登空港を観光や農業振興、企業立地をはじめとする地域活性化に役立てるための空港利活用案の具体化を図っていく考えです。

### 小松空港

#### 世界に開かれたゲートウェイ空港を目指す

ルクセンブルグ・カールルクス航空の国際貨物定期便に加えて、この四月には韓国アジア航空の貨物チャーター便が就航するなど、小松空港は日本と世界を結ぶ物流拠点として大きく伸びています。

今後、北米便やアジア便など新たな国際貨物便の路線開設とともに、空港周辺への物流関連施設集積やビジネス機会の創出を推進していく考えです。

一方、旅客便は現在のソウル便のほか、香港や東南アジアの国々との路線開設を目指します。国内便は、四国や北海道、東北海道など新規のネットワークの充実を図っていきます。



カーゴルクス航空貨物定期便

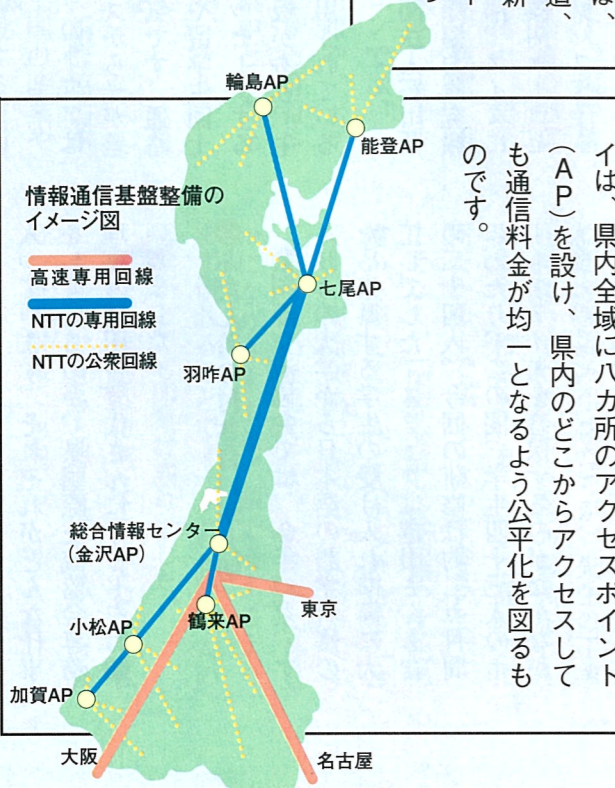
※ゲートウェイ  
遠方への移動のため、各種の交通機関が集中し、人々の集散する場所

### いしかわマルチメディア・スーパーハイウェイ構想

#### 情報通信の格差を是正

現在、石川県の行政情報にアクセスする場合、地域によって通信料金が異なります。それは、家庭の端末機器から県内にあるアクセスポイントへの距離の遠近によるものです。この距離が遠いほど、通信料金は高くなります。文字、画像、音声などを組み合わせたマルチメディアの普及により、将来的には、家庭に居ながらにして、行政に対するさまざまな申請を行うことが予想されます。

いしかわマルチメディア・スーパーハイウェイは、県内全域に八カ所のアクセスポイント（AP）を設け、県内のどこからアクセスしても通信料金が均一となるよう公平化を図るものです。



## ■石川県国際交流センター 金沢市本町1丁目5番3号リファール(3階・4階)

(財)石川県国際交流協会国際情報ライブラリー

- 開館 月～土 午前9時～午後6時  
日・祝日 午前9時～午後5時  
研修室等の貸館は午前9時～午後9時
- 休館 年末年始(12月29日～1月3日)
- 電話 076(262)5931

### 石川県パスポートセンター

- 受付時間 月～金 午前9時～午後5時
- 休日 土・日・祝日 年末年始
- 電話 076(223)9109



アットホームな雰囲気の日本語教室に私も参加しました



越田専務理事から国際情報ライブラリーの説明を受けました

## 県政ウオッチング

女性リポーターが行く

### 石川県国際交流センター

●リポーター  
金沢市北町  
たけしま まさよ  
竹島 真砂代さん  
富山県新湊市出身。会社員。平成2年、就職と同時に金沢市へ転居。現在、夫と2人暮らし。趣味は旅行



## 国際交流は小さな一歩の積み重ねから

「海外旅行の経験はあるけれども、改めて国際交流と言われるとどうすればいいの」という方も多いのではないのでしょうか。国際化が叫ばれる中、他国との交流のあり方や石川県の取り組みはどのようなのか、昨年11月、金沢駅前の再開発ビル「リファール」3、4階に完成した石川県国際交流センターを訪ねました。

### ●とてもオープンな雰囲気

石川県国際交流センターのフロアは、広々とした吹き抜けのガラスから光が差し込み、とても明るい雰囲気です。通路には、語学の個人レッスンや留学生同士で不用品のリサイクルをメッセージする手作りのピラを張った掲示板があり、生活レベルでもオープンに活用されているのをまず感じました。

同交流センターには、財団法人石川県国際交流協会、いしかわ国際協力研究機構、国際協力事業団北陸支部、スイスに本部を持つ語学教育の専門機関ユーロセンター金沢、そして、石川県パスポート



ふだん着の国際交流の橋渡し役となってくれる国際交流員のみなさん

### ●情報提供に力を入れる

同協会では、県内在住の留学生や企業で働く外国人を対象にした日本語教室も開く一方、外国人との交流をこく自然にとらえてもらおうと、県内の小中学校に国際交流員や留学生を派遣して、簡単な会話や歌、ゲームなどを楽しむ国際交流教室を開催しています。

また、海外に関するさまざまな情報の提供にも力を入れています。国際情報ライブラリーでは、国際関係の図書や雑誌の閲覧、貸し出しのほか、語学講座の受け付けや留学相談、翻訳・通訳サービスの紹介なども行っています。ゆったりとした交流サロンでは、インターネットによる海外情報や、ボランティアの検索が瞬時にできる情報ネットワークシステムを準備中とのこと、その完備が待たれます。

### ●企業も国際協力を理解を

外務省の外郭団体である国際協力事業団北陸支部は、開発途上国の産業や厚生、教育、文化振興を支援する技術



語学の個人レッスンや不用品のリサイクルを呼びかける色とりどりのピラに思わずにっこり

センター及び市民サービスコーナーが入っています。それぞれがどんな仕事をしているのか、県国際交流協会専務理事の越田曾登代さんにガイドをお願いしました。

### ●ふだん着の付き合いが大切

県国際交流協会では、今年の夏、アメリカの大学から日本語の語学研修のため来県する学生の受け入れ準備に大忙しでした。スタッフは越田さんも含め二十四人。今回の研修は約二カ月間にわたり、この間、学生四十三人のホームステイ先を確保するのがなかなか大変とのこと。

石川県内のホームステイ・ホストファミリーは年々増えて、現在、約三百五十家庭に上っていますが、越田さんは「まだまだ」との答え。というのも、石川県には大都市にない生活感や人情があり、日本的な文化を色濃く残しているという理由から、今後、ますます研修希望者が増加すると予想されるためだそうです。

越田さんは「ホームステイはボランティア精神が支えます。同時に、相手をお客さん扱いせず、家事を一緒に手伝ってもらうなど、ふだん着の感覚が大切ですね」と話します。私の妹も、ワーキングホリデーで一年間、カナダに滞在しましたが、向こうのホストファミリーはあくまでも家族の一員として温かく接してくれたそうです。

専門家、草の根レベルでお手伝いする青年海外協力隊の派遣などを行っています。

石川県出身の協力隊員は、昨年までで百五十七人に上ると聞き、頼もしく思いました。しかし、隊員として出発する際、企業側の理解が得られず退職するケースが少なくありません。私の主人の知人も学生時代、協力隊に参加しましたが、帰国後、就職ができず困ったという話を聞きました。尊い国際協力の精神を企業側がもっと評価し、後押しするようになってほしいと思います。

### ●「習うより慣れよう」

ユーロセンター金沢を訪ねた時、ちょうど日本語講座が開かれていたので、教室の中に入れてもらいました。国籍や肌の色の違う生徒たちが、先生の丁寧な指導の下で熱心に会話の勉強をしています。和気あいあいとした雰囲気、何だか私まで楽しくなってきました。

そして、「国際交流とは国籍や文化の違いを超えて、人と人がふれ合うことです。国際交流によって、人間として生きていかなだと思えたら、人生がより豊かになりますよね。頭で考えるよりもまず慣れることです」との越田さんの言葉がとても印象に残りました。

国際交流とは特別なことではなく、私にも何かできると思えたことが、今日一番の収穫でした。

初代・いしかわの看板母娘  
鈴木美紀さん

ESSAY

海の輝きを取り戻した  
郷土愛に感動



■プロフィール  
昭和51年埼玉県上里町生まれ。東京都在住。平成8年、群馬県の私立新島学園女子短期大学を卒業。初代「いしかわの看板母娘」として、平成7年9月から各種催しに参加して石川県の観光PRに活躍。

鈴木美紀さんは初代「いしかわの看板母娘」として母の美枝子さんと、平成七年九月から今年三月まで石川県の観光PRに活躍しました。この一年半を振り返って、美紀さんが思い出な



九谷焼の絵付けに挑戦。他にも石川の数々の文化を知り、勉強になりました

石川県と私の不思議な縁

母と二人で石川県の観光PRをさせていただいたことは、忘れられない思い出になりました。友人の勧めで応募し選ばれた時、「あなたがまだ小さいころ、石川県に行ったことがあるのよ」と言った母の言葉が印象的でした。私が生後九カ月の時、親子三人、夏休みの家族旅行で十日間ほど石川県を訪れたそうです。石川県に何か不思議な縁を感じます。

もちろん、当時の記憶はありません。でも、石川県の各地を訪れた時に懐かしい感じがしたのは、赤ん坊だった私の心に美しい石川の景色が焼きついていていたからかもしれません。

郷土を愛する県民の姿に感動

その美しい自然を脅かした一月の重油流出事故に、私と母の心はひどく痛みました。テレビに映るのは、私の思い出に残る能登の海岸線が重油で汚れていく無慈悲な光景ばかり。

そんな中、懸命に重油を回収する地元の方々や、ボランティアの活躍を見て安心感と感動を覚えました。画面を通して皆さんの郷土愛が、ひしひしと伝わってきたのです。あれから約半年、重油もすっかり回収され、日本海も以前と変わらぬ青さで輝いています。なんて、素晴らしいことでしょう！「いしかわの看板母娘」であることを知って、友人たちからよく状況を聞かれますが、そんな時、私は胸を張ってこう答えています。「もう大丈夫。ふる里を愛するみんなの気持ちが海を守った」ってね。

お気に入りには「じぶ煮」

金沢の菓子の上品な甘さにはおが緩んだこと、輪島の温泉に入りながら雄大な日本海を眺めたこと、小松の那谷寺の静寂さに身が引き締まったことなど、思い出は尽きません。お気に入りには「じぶ煮」。女性はおいしいものに弱いんです。新鮮な海の幸、豊かな山の幸もあり、うれしい限りです。

石川県と言えば「兼六園、金沢」というイメージでしたが、能登や加賀、白山にも独特の文化があることを知り、とても有意義な一年半でした。全国にはまだ金沢以外の石川を知らない人が大勢いることでしょう。能登や加賀、白山の魅力をもっとアピールできればいいな、と思います。

まだまだ私の知らない石川の魅力がたくさんあると思います。その魅力を探りに、いつか友人と観光客として石川を訪れることを楽しみにしています。



石川のボランティア 加賀手話サークル「道」

手話は手段、友人になる気持ちが大変

流したい」との思いが寄せられ、翌年に同サークルを結成しました。サークルは、

- ①手話を覚えてろうあ者と交流する
  - ②ろうあ者の生活や権利について考える
  - ③だれもが参加でき、多くの仲間をつくる
- を、モットーに活動しています。

何より「コミュニケーション」

取材に訪れた時、会員とろうあ者の約三十人が「ことわざ当て」ゲームや「しりとり」ゲームで交流を深めていました。手話が分からない人には皆で教え合うなど、和やかな雰囲気にも包まれていました。この他にも体育館でソフトバレーをしたり、ろうあ者に情報提供ということ、保健婦さんや薬剤師さんに健康管理などについて話してもらったこともあります。

「道」の会員の中には全国手話通訳問題研究会石川支部



に入会している会員も多く、手話通訳者にはしばしば見受けられる頸肩腕障害の労災認定に向けての運動もしています。石川県手話サークル連絡協議会にも加盟している「道」は、県内の他の十七サークルとの交流・情報交換も深めています。中川めぐみ会長は「手話サークルは楽しみながらろうあ者とコミュニケーションを図るステキな空間です」と話しています。

【お問い合わせ】

加賀市社会福祉協議会  
07617(2)1500  
07617(2)1244



ボランティアに  
感じた確かな未来

県民の皆さん、タンカー重油流出事故では本当にお世話になりました。美しい石川の海岸線が、悪魔のような重油にみるみる汚されていく。なのに、発達した科学技術はすすべを持たない。そんな、やり場のない怒りと無力感を吹き飛ばしてくれたのが、柄杓を手に黙々と除去作業に出た下さった大勢のボランティアの皆さんでした。「体調が悪くて出られない代わりです」と、大切な年金から義援金を送ってこられたお年寄りもいらっしゃいました。心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。

今回の重油流出事故は国内外に報道され、ボランティア活動も反響を呼びました。ですが、ボランティアとは本来、脚光を浴びることの少ない、ごく日常に息づくものです。

例えば、福祉や青少年の健全育成、国際交流、リサイクルなどがそうですね。ボランティアの力が地域の生活を支えてくれる時代が、もうそこまでやって来ているようです。「関心はあるけど忙しくて」とか「参加したいが何をしたらいいかわからない」との理由から、ボランティアへの参加に二の足を踏む方もいらっしゃると思います。昨年、全国に先駆けて県庁内に県民ボランティア情報センター（TEL076・223・9114）を設置したのは、どこに、どんな

ボランティア活動があるかを広く知っていただくためです。ボランティアは、「できることから、気軽に、楽しく」が基本です。自分の趣味や経験が生かせ、ちょっとした活動がみんなの喜びにつながるボランティアがきっとあるはずですよ。

(谷本 正憲)



笑顔が絶えない「道」のサークル活動=加賀市市民会館



# 視点

Close up

## 「ボランティア」

### を考える

今回の視点は、社会のさまざまな分野で市民ボランティアグループの活動が活発化する中、ボランティアを取り上げました。一月のナホトカ号重油流出事故では、石川県に大量の重油が漂着し、多数のボランティアの方々に回収作業に出ていただきました。県民ボランティア情報センターに寄せられた皆さんの感想の一部を誌上に掲載しながら、ボランティアについて一緒に考えていきたいと思います。

### 九万七千三百九十二人が重油回収に参加

今年一月二日、島根県沖でロシア船籍タンカー「ナホトカ号」が沈没し、多量の重油が流出しました。石川県にも加賀から能登まで、沿岸十八市町の海岸に重油が漂着しました。これに対し、県では関係機関と協力し、ドラム缶にして約十一万本もの油を延べ二十万人以上の人員により回収しました。

さらに、一月七日から県民ボランティア情報センターが窓口となり、県民に重油回収のボランティアを呼び掛けました。登録件数は九百五十一件に上り、参加者の人数は述べ九万七千三百九十二人を数えました。

### 「ふるさと」「自然」を守るために

まず、ボランティアへの参加動機で最も多かったのが、郷土愛によるものでした。「能登島で生まれ育ったので、海が汚染されたと聞き、いてもたってもいられなかつた」(野々市町、女性)、「自分たちが住んでいる町が汚れたら困る。皆が困る」(松任市、小学四年生)、「地域社会に貢献するため」(金沢市、男性)などで、中には、「漁業や観光が大打撃を受け、地域経済が停滞する恐れがある」(珠洲市、男性)と、船に乗って海上から重油回収に汗を流した方もいらっしゃいました。

環境破壊を心配して参加した方も少なくありませんでした。「海の生物を少しでも助けたい」(珠洲市、高校二年生)、「人間のエゴで地球や自然を汚してはいけない。自然は地球上にいる生物すべてのもの」(鹿島町、女性)などです。



バケツリレーで回収した重油を運び出すボランティアの方々＝加賀市塩屋海岸

## 助け合う姿に広がる共感 重油回収ボランティアに聞く

### 自主性の尊重が大原則

今回、重油回収のボランティア活動が報道などで大々的に取り上げられた結果、県内はもとより県外からも、老若男女を問わず多くのボランティアが集まってくれました。そして、辛い作業にもかかわらず、参加者のほとんどがボランティア活動への共感を表しています。

「人間は団結することでどんなことでもできる、という貴重な体験をした」(珠洲市、高校二年生)、「全国からボランティアが集まるのを見て、阪神淡路大震災以来、自然に助け合うことができるようになったと実感した」(穴水町、中学二年生)。

半面、回収に参加できないとの自責の念に駆られた方もいらっしゃったのではないのでしょうか。加賀市の女性は、かぜのため海岸での回収作業に参加できず、義援金と炊き出しのボランティアに回ったとのことですが、「地元にながら、重油の回収に行けず心苦しかった」と振り返ります。

この点について、町内会長としてボランティアを呼び掛けた珠洲市の男性は、「ボランティアは強制される性格のものであってはならない」と述べ、体調や年齢など個々の事情をくみ取る気持ちが大切とのご意見です。

ボランティア熱が過熱するあまり、周囲に強制的な空気が流れることは避けなければ

なりません。ボランティアは、あくまでも個人の自発的な意思によるものです。

### 活動支援の環境作りを進める

今回の重油流出事故は、石川県はもとより、わが国でも経験のない大災害で、県内でこれほど大規模なボランティア活動が行われるのも初めてでした。したがって、重油漂着の初期の段階では、受け入れ態勢の整備、作業内容などの周知、コーディネート設置などについて反省すべき点がいくつか見受けられました。効率的なボランティアの受け入れ態勢の早急な整備が指摘されました。

その点に触れた意見を拾い上げてみます。珠洲市在住の県政オピニオンリーダーの方は、「ボランティアでより大きな効果を上げるために、(登録時に)技能や免許の取得など、個人の能力が最大限に発揮できる事項の聴き取りが必要ではないか」。加賀市で生活習慣病予防食調理教室を開催するなど、ボランティアに携わる女性は、「民間ボランティアの活力を行政に反映させてほしい。そこで根付いたボランティア精神をくみ取ってほしい」と述べています。

県では、今回の経験や皆さんの意見を踏まえて、今後、ボランティアの活動支援などの環境作りを一層進めたいと考えています。また、県民ボランティア情報センターでは、昨年四月の開設以来、ボランティア



4月27日、各海岸でビーチリカバリー県民運動が行われ、多数のボランティアが海岸の清掃に参加しました＝羽咋市千里浜海岸

### お問い合わせ

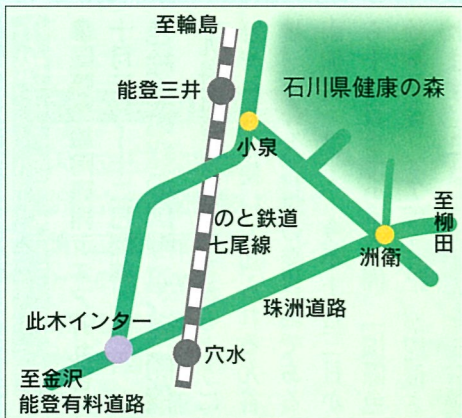
■県民ボランティア情報センター

☎076(223)9114  
☎076(223)9474

**利用案内**

- 開館・利用時間
  - 午前9時～午後4時30分
  - ・オートキャンプ場
  - (利用期間 4月1日～10月末)
- 休館日
  - ・森林科学館 無休(冬期間は閉鎖)
  - ・Houseあすなろ 毎週月曜日
- 利用料金 入場・入館は無料
  - ・オートキャンプ場 1泊 610円
  - ・バンガロー 1,730円(休憩) 3,360円(宿泊)
  - ・紙漉き体験 1人500円
- 問い合わせ先
  - ・森林科学館(あすなろミュージアム)
    - 輪島市三井町中大谷内20-1
    - ☎0768(26)1413
  - ・Houseあすなろ
    - 輪島市三井町小泉滝ノ谷内18
    - ☎0768(26)1818
  - ・オートキャンプ場
    - 三井森林組合
    - 輪島市三井町長沢2部1-1
    - ☎0768(26)1116

▼Houseあすなろ



**【周辺ガイド】**  
 輪島といえば名物の朝市。中心部にある朝市通りで、朝7時ごろから正午まで開いています。輪島塗のお店も市内のあちこちにありますが、国内外の漆器を一堂に展示しているのが、石川県輪島漆芸美術館(☎0768-22-9788)です。正倉院の校倉造りをイメージした建物が目印で、漆芸専門の美術館としては国内唯一です。



6棟のバンガローも備えられたオートキャンプ場



木の香が漂う森林科学館で、楽しくお勉強



健康の森の中を流れる小川で水遊び



青空の下で食べるお母さんのお弁当は最高です

**■自然の中のランチは最高!**  
 健康の森はその名の通り、森林浴に絶好のロケーションです。この日 use あすなろ」の和紙体験室。三井地区の仁行川のほとりで始まった能登和紙は、能登半島では唯一の手漉き和紙で、ここでは素朴な風合いの能登和紙づくりを体験できます。原料の入った水槽の前に紙漉き枠を持ち、次々と紙漉きに挑戦する子供たちの表情は真剣そのもの。「ゆっくり動かして」とか「もっと薄く」と、背後から声をかけるご両親も思わず手が動いていました。漉き込んだ和紙の上に、花びらや野草を置き、乾燥機で水分を取れば、約一時間でオリジナル和紙の完成です。一番苦労していた朋美さんは「きれいでしょう」と満面の笑み。とても夢のあるデザインでしたよ。

は天気も上々で、宮下さん一家は「こどもの広場」ですっかりピクニック気分。智恵子さん手づくりのお弁当を食べてお腹がいっぱいになった子供たちは鬼ごっこを始めました。そんな光景を眺めながら、隆司さんは「健康の森は能登の素晴らしい自然に手軽に触れられるのがいいですね。ぜひ、金沢や加賀からも多くの人たちに来ていただければ」と満足そうです。帰り際、今年四月末にオープンしたばかりのオートキャンプ場とバンガローを見学しました。「地元になんかすてきなキャンプ場があるなんて最高ね」と言う智恵子さんの声に全員が納得の表情。健康の森は今後、奥能登のアウトドア・レジャーの拠点として、ますます人気が高まりそうです。

**施設ガイド**

輪島市三井町

**石川県健康の森**

- 案内役
  - 輪島市三井町
  - 宮下 隆一さん(医師)
  - 隆司さん(主婦)
  - 智恵子さん(主婦)
  - 隆一くん(10歳)
  - 阿美さん(9歳)
  - 朋美さん(7歳)

**■自然を知るための工夫がいっぱい**  
 平成六年にオープンした健康の森は、能登有料道路終点の穴水此木インターから車で約十五分の距離にあります。県木のアテをはじめスギやコナラの木々が繁る約五百九十九ヘクタールの広大な敷地は、あの東京ドームの実に百三十倍の広さです。健康の森へはこれが二度目という宮下さん一家。今日はじっくり見学をとのことで、まずは森林や林業をさまざまな角度から学べる森林科学館(あすなろミュージアム)からスタートです。

**■能登和紙づくりを体験**  
 外へ出た阿美さんと朋美さんは、隆司さんの腕を引っ張って先を急ぎました。二人のお目当ては、「H. で作られたアルペンホルンに飛びつき、いざ吹奏。大きく息を吹き込むと、長さ九メートル余りのアルペンホルンから「ポー、ポー」とやわらかい音がしました。阿美さんは、野鳥の鳴き声を聞き、ボタンを押して答えるクイズに挑戦。ほぼ全問正解の成績に、「知ってる鳥ばかりだもん」と、少しもの足りなさそうな口ぶりでしたが、目がキラキラと輝いていました。



親子で仲良く紙漉きを体験しました

奥能登の中心地・輪島市。古くから輪島塗の伝統が受け継がれてきた背景には、周辺の豊かな森林を抜きにしては語れません。自然がはぐくんだ文化への理解を深め、同時に自然そのものを楽しめる「石川県健康の森」を、地元の同市三井町にお住まいの宮下さん一家に案内してもらいました。



「だれが一番大きな音が出るかな」アルペンホルンに挑戦です

**クイズ みんなでチャレンジ**

- Q1 石川県健康の森は東京ドーム約何面分の広さでしょうか?  
 ①約30面 ②約130面 ③約300面
  - Q2 石川県の県木は何でしょうか?  
 ①マツ ②アテ ③スギ
  - Q3 石川県健康の森にある広場の名前は何でしょうか?  
 ①「花の広場」 ②「こどもの広場」 ③「健康の広場」
- はがきに、クイズの解答と住所・氏名・年齢・職業・電話番号を明記のうえ、〒920-80(住所不要) 石川県広報広聴室「ほっと石川」係までお送り下さい。  
 締め切りは平成9年8月末日。



# 市町村トピックス

## TOPICS

石川県には、41市町村があり、それぞれ工夫を凝らした個性あるふるさとづくりを進めています。このコーナーでは、各市町村の話題を取り上げて紹介します。

### マルチメディアで広がる図書館サービス

石川県図書館情報ネットワーク



端末機には絵本の表紙が表示され、楽しみながら検索できます  
＝県立図書館「子どもの本のひろば」

予約した図書は、定期巡回車が最寄りの図書館までお届けするサービスを行っています。また、県立図書館の閲覧室に備えてある三台の端末機のうち一台は、子供やお年寄りの利用を考慮し、画面に直接触れる「タッチパネル」方式をとっています。

#### 最寄りの図書館で検索、予約が可能

コンピューターで県立図書館と各市町村の図書館を結ぶ石川県図書館情報ネットワーク（愛称・ライブラリーネット）いしかわが、今年四月一日から稼働しました。

現在、十一市町、十二図書館の端末機と接続しており、県立図書館にある約五十万冊と十一市町村の図書館の約二十万冊の最新刊図書情報を、最寄りの図書館で素早く検索できると同時に、貸し出しの申し込みが可能となりました。

予約した図書は、定期巡回車が最寄りの図書館までお届けするサービスを行っています。

中でも、県立図書館の「子どもの本のひろば」にある端末機は、絵本を検索すると絵本の表紙が画像表示されることから「親子で表紙を見ながら絵本を選べる」と人気を呼んでいます。「ライブラリーネットいしかわ」には、九年度中に新たに十五市町村の十六図書館が加わる予定です。県立図書館では「画像情報の提供で、「本離れ」と言われる子供たちにも、図書館を身近に感じてもらえると思います」と、話しています。

#### 画像情報の提供が特徴

さらに、県立図書館からは、東京にある国立国会図書館、学術情報センターにもアクセスが出来ます。

図書館のネットワーク化は他県でも取り組んでいます。が、「ライブラリーネットいしかわ」の大きな特徴は、画像情報を見ることができるところでしょう。

県立図書館が所蔵する古文書や江戸期の県内地図、錦絵（浮世絵版画）を画像情報として記録しています。石川県ゆかりの偉人のホームページなどもあり、マルチメディアを活用した新しい図書館サービスとして注目を集めています。



**●奥能登珠洲ビーチホテル 長期滞在をリッチに演出**  
珠洲市のりふれっしゅ村鉢ヶ崎の中核施設として、昨年六月、オープンしたのが奥能登珠洲ビーチホテル。目の前には美しい海岸線と県内屈指の透明な海が広がり、周囲にはオートキャンプ場やフィールドアスレチック、夜間照明付き全天候型のテニスコート、珠洲焼を自分の手で体験できる陶芸センター、花壇などが整備されています。

ホテルは八階建てで、三十六室、百五十人を収容します。奥能登初のリゾートホテルで館内には、トレーニングジムや温水プールも完備。また、全客室に国内では初の試みとなるインターネットの端末を導入するなど、長期滞在客のさまざまなニーズに対応できるサービスの充実にも努めています。

のんびりとホテルライフを楽しむもよし、ホテルを基地に奥能登を探索するもよし。豊かな自然や多くの史跡、そして新鮮な味覚と厚い人情に触れる旅を楽しんでみてはいかがでしょうか。

珠洲市嶋島町1部2番地480  
☎0768(82)7000  
☎0768(82)7001

料金はシーズンによって異なりますので、詳細は電話でお問い合わせ下さい。



プールは一般用と幼児用の2つ  
写真はスライダーがある幼児用プール

#### 小松市

**●国際色絵陶磁器フェア'97九谷 十月三日～十二日開催**  
色絵陶磁器の国際コンペ開催

「九谷五彩」に象徴されるように、鮮やかな色使いで知られる九谷焼。その九谷焼の発祥地である南加賀一帯で、今年十月三日から十二日までの十日間、「国際色絵陶磁器フェア'97九谷」が開催されます。こまつドームを主会場として、加賀市や寺井町などで特別展・協賛展を同時開催する一大イベントです。

同フェアは、九谷焼の魅力を広く発信するとともに、国内外の創造力を取り入れて、新しい九谷焼の伝統を創ろうとするものです。メインとなる企画は、デザイン画と陶磁器作品の二部



メイン会場のこまつドーム



マスコットキャラクター  
デコちゃん



門で公募された国際コンペティション。デザイン画の部門は磁器の大皿に描く模様やデザイン、陶磁器部門は色絵磁器を国内外から募集します。現在、世界四十八カ国から一千百点の応募があり、最終的には二千点の応募を見込んでいます。

このほか、世界の色絵陶磁器展や王室の陶磁器展など多彩なイベントが計画されており、同フェア開催委員会では、「伝統産業である九谷焼の今後の発展や販路拡大に結びつくもの」と期待を寄せています。

入場料	前売り			当日		
	大	高	小	大	高	小
大人	1000円	600円	400円	1200円	800円	500円
中学生	600円	400円	200円	800円	500円	200円
小学生	400円	200円	100円	500円	300円	100円
小学生以下	無料	無料	無料	無料	無料	無料

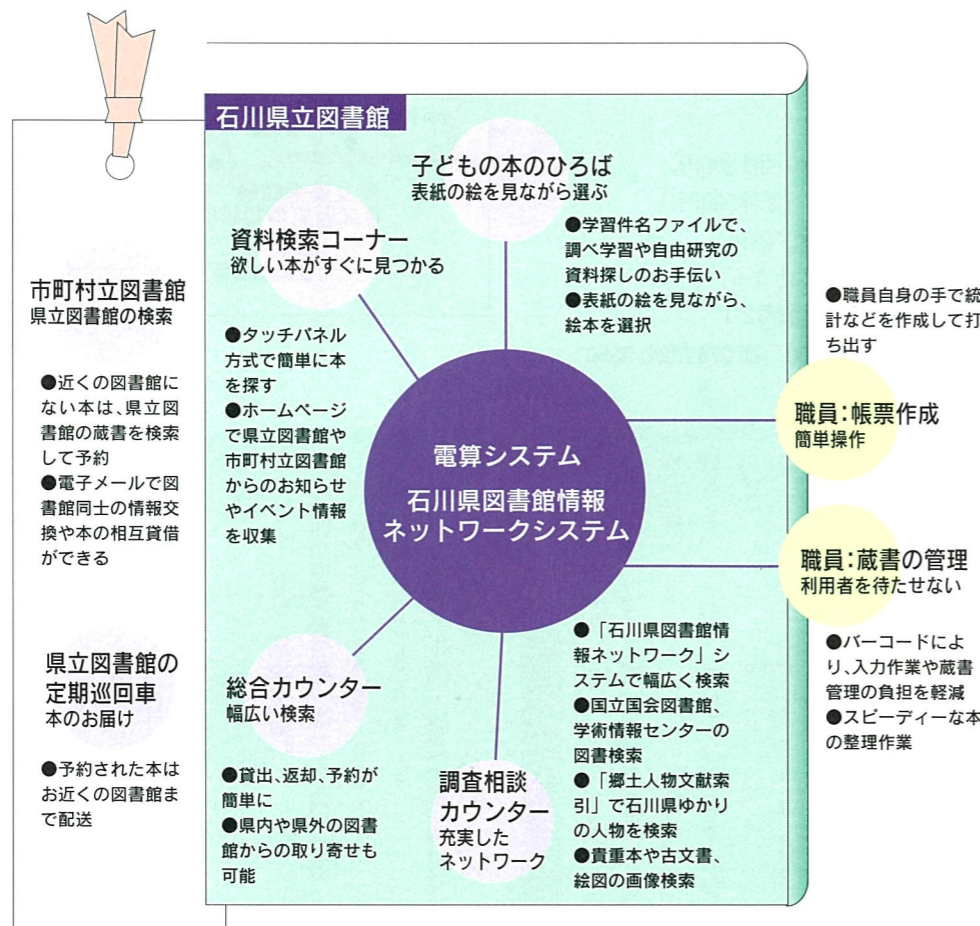
お問い合わせ  
国際色絵陶磁器フェア'97九谷  
開催委員会（小松市役所内）  
☎0761(24)8148

#### ☆ネットワーク参加図書館

- 金沢市立玉川図書館
- 金沢市立泉野図書館
- 加賀市立図書館
- 野々市町立図書館
- 富来町立図書館
- 田鶴浜町立図書館
- 鹿西町立図書館
- 山中町立図書館
- 七塚町立図書館
- 志賀町立図書館
- 中島町立図書館
- 津幡町立図書館

#### お問い合わせ

石川県立図書館  
金沢市本多町3-2-15  
☎076(223)9580





石川県立美術館

展覧会案内

●特別展

イルクーツク州立美術館所蔵  
15～20世紀のロシア美術  
イコンと絵画



今年9月28日から開催される「イコンと絵画」展は、ロシア連邦イルクーツク州との交流30周年を記念して開かれるもので、イルクーツク州立美術館所蔵のイコン(聖画像)など精選された151点のロシア美術が一般に公開されます。これだけの数のイコンが公開されるのは国内で初めてのこととして注目を集めています。

【期間】

平成9年9月28日(日)～10月26日(日)

【観覧料】(予定)

一般/800円(団体650円)  
大学生/400円(団体300円)  
小・中・高校生/300円(団体200円)  
講演会も予定しています(日時未定)

美術館概要

【開館時間】午前9時～午後5時

(観覧券の発売は午後4時30分まで)

【休館日】年末年始(12月29日～1月3日)

展示替えの期間

【観覧料】

一般/350円(団体280円)  
大学生/280円(団体220円)  
小・中・高校生/無料  
※団体は20名以上から  
〒920 金沢市出羽町2-1

☎076(231)7580 ☎076(224)9550

石川県立歴史博物館

展示会案内

●夏季特別展

モダンの調べ 蓄音機

明治、大正、昭和の蓄音機を、鞍信一氏の音響コレクションを中心に多数展示。演奏可能な機種による実演奏や講演会も行われます。

【期間】

平成9年7月19日(土)～9月7日(日)

【講演会】7月20日(日)

【入館料】

一般/500円(団体400円)  
大学生/400円(団体320円)  
小・中・高校生/無料



博物館概要

【開館時間】午前9時～午後5時

(入館は午後4時30分まで)

【休館日】年末年始(12月29日～1月3日)

資料の展示替え・整理の期間

【入館料】

一般/250円(団体200円)  
大学生/200円(団体160円)  
小・中・高校生/無料  
※団体は20名以上から  
〒920 金沢市出羽町3-1

☎076(262)3236 ☎076(262)1836



オーケストラ・アンサンブル金沢

公演スケジュール

●特別公演

オペラ モーツァルト「<sup>まてき</sup>魔笛」



【指揮】岩城 宏之

【演出】栗山 昌良

【合唱指揮】大谷 研二

【公演日】平成9年11月3日(祝)

【場所】金沢市観光会館

【開演】午後2時

●金沢スペシャル公演

今世紀最高のバリトン歌手 ヘルマン・プライと岩城、O・E・Kによる

「冬の旅」全24曲

【指揮】岩城 宏之

【バリトン】ヘルマン・プライ

【演目】シューベルト「冬の旅」全24曲  
(鈴木行一編曲オーケストラ版)

【公演日】平成9年12月10日(水)

【場所】金沢市観光会館

【開演】午後7時

事務局

(財)石川県音楽文化振興事業団

〒920 金沢市広坂1-7-1

☎076(232)0171

前略  
谷本知事



県政に対するご提言などを郵便またはFAXでお寄せ下さい。住所・氏名・年齢・職業も明記して下さい。  
〒920-8080(住所不要)

石川県広報聴室

「前略 谷本知事」あて

☎076(223)9474

ほつと石川・参加者募集

「ほつと石川」では、「県政ウォッチング」に登場していただく女性リポーター、「施設ガイド」で県営施設の案内役をお願いする家族を募集しています。お問い合わせ、申し込みは、  
〒920-8080(住所不要)

石川県広報聴室「ほつと石川」係

☎076(223)9106

☎076(223)9474

住所・氏名・年齢・職業・電話番号を明記して下さい。

編集後記

●「ほつと石川」は、九年度から発行回数が増えます。県民参加型の広報誌を目指し、これまで以上に頑張りますので、皆さまのご支援、叱咤を今後ともよろしく願います。

●施設ガイドで紹介した「石川県健康の森」は、奥能登の恵まれた自然が満喫できる新しい施設です。観光シーズンに入りました。能登方面へドライブに出掛けるご家族も多いことでしょう。その際、一度、立ち寄ってみてはいかがでしょうか。